

「豚熱経口ワクチンの野外散布実施に係る指針」の見直しポイント案

(11月2日)

1. 基本方針:

野生イノシシにおける豚熱まん延及び抗体の付与状況を踏まえた、今後の経口ワクチン散布の散布方針について検討。

2. ワクチン散布時期:

まん延防止のために重要な若齢個体について、移行抗体消失時期(生後約3カ月)、ワクチンを摂食可能となる月例を踏まえて、散布時期について検討。

3. 餌付け:

経口ワクチンの散布に先立ち、あらかじめ(注:ドイツの場合、散布10日前とされている。)、散布候補地点で餌付け(誘引)を行い、散布地点の選定を行う。

→

有識者、狩猟者等関係者アドバイスを踏まえて散布地点の選定を行う際、新たに散布する地域以外の地域における餌付けの必要性について検討。散布後のサーベイランス結果を踏まえた上記地域の餌付けの必要性について随時検証。

4. 回収:

散布したワクチンは、散布5日後に回収する。ただし、経口ワクチン散布の有効性評価のために、散布地点数の1/10か所を上限として、餌付け、散布及び回収並びにセンサーカメラ、監視カメラ等の設置の全てを実施するモニタリング地域を設定した場合においては、モニタリング地域以外の地域では、捕獲作業や次回散布時に経口ワクチンの回収を行うことも可とし、カメラの設置は省略することができる。

→

新たな散布地域においては、散布したワクチンを散布5日後に回収し、摂食状況を確認する。新規散布地域以外の地域又は人が入りにくい場所を対象とする空中散布地域については、基本的にワクチン回収を省略可能とする。

5. サーベイランス

経口ワクチンの効果を検証するとともに、環境中のウイルス濃度及びまん延の状況を把握するため、サーベイランスを実施。猟友会等と協力して捕獲・狩猟現場におけるバイオセキュリティを考慮し、検体の採材、試験機関への輸送、検査の実施等サーベイランス体制構築を行う。

6. その他(効率的な散布手法(ドローン、空中散布)について追記等